

# 調 査 総 評

一般社団法人  
外国人看護師・介護福祉士支援協議会

第6回目を迎えた今回の調査結果は、回答の違いがわかりやすいように看護師候補者、介護福祉士候補者、EPA看護師、EPA介護福祉士、准看護師とそれぞれの対象者別の回答となっている。

I. 平成24年度に一時受入、候補者数ともに低下したが、平成25年度からは看護、介護ともに上昇している。ますます進む高齢化により介護のニーズが求められている昨今であるが、EPA候補者受入事業にも同様の傾向がみられる。受入開始当初は国際貢献を目的としていたが、現代社会の状況、声によりその目的が労働政策に変わりつつあることが確認できる。

II. 看護師候補者の学習時間と介護福祉士候補者の学習時間を比較してみると、看護師候補者に関しては就業時間内でも学習時間が必ず設けられているのに対して、介護福祉士候補者に関しては学習時間が設けられておらず、休日も学習時間を確保していない現状も伺える。（もちろん、受け入れ施設によっては、しっかりとした学習サポートを受けている候補者もいる）日本語でのコミュニケーションをとることが出来、素直な気持ちでケアを行える外国人を一人材として非常に必要としている緊迫した状況が確認できる。

III. 今回のアンケートに回答をしている候補者のほとんどが平成24年度以降に来日をしている新しいメンバーである。そのため、「これから10年以上日本で働きたい」という回答をしている者が多いが、受入病院、施設側の意向に沿うよう、今後もその気持ちを継続して持ち続けていけるかが課題である。

IV. 母国で看護師であった外国人介護福祉士は、将来看護師としても働きたいと希望を持ち始める者も出てきている。資格取得に関しては本人の努力が必要であるが、介護、看護の両業種にて活躍できるような政策が求められる時期なのかもしれない。

V. 技能実習生制度による外国人介護人材の受入に関しては、語学力、期間、待遇等などの問題から、賛否両論であるところが伺える。

以上